



# YOKOHAMA ASAHI ROTARY CLUB WEEKLY

RIテーマ「奉仕を通じて平和を」Peace Through Service

2012-13年度 RI会長／田中作次 RI.D2590ガバナー／露木雄二 横浜旭RC会長／山崎良三

国際ロータリー第2590地区

## 横浜旭ロータリークラブ

事務所 横浜市旭区二俣川1-2 後藤ビル2F  
TEL.045-365-3273  
FAX.045-365-3132  
Email:asahirc@titan.ocn.ne.jp  
〒241-0821

例会場 二俣川相鉄ライフ4Fコミュニティサロン  
例会日 毎週水曜日／12時30分～1時30分



2013年5月29日 第2104回例会 VOL. 44 No. 43

- 司 会 SAA 内田 敏
- 開会点鐘 会 長 山崎 良三
- 齊 唱 それでこそロータリー  
SL 北澤 正浩

### ■出席報告

会 員 数	34名	本日の出席数	25名
本日の出席率	83.33%	修正出席率	100%

### ■本日の欠席者

斉藤、倉本、佐藤、福村、増田

### ■他クラブ出席者

青木、千葉、新川、太田、北澤、松本  
(横浜鶴峰 RC) 福村 (横浜戸塚 RC)

### ■ゲスト

北瀬 達也殿 (横浜鶴峰 RC)

### ■会長報告

○地区関係

次年度青少年交換学生の紹介

氏名 ナムフォン、ナラサワド 女性 16歳

出身 タイ

生年月日 1997. 3. 20

期間 平成 25 年 9 月～約 10 ヶ月

来日予定 8 月 13 日～16 日

費用 地区から助成金 80 万円支給有り

以上の学生のホストファミリー、カウンセラー、受け入れ高校を決定して保証書の返送を依頼されています。会員の皆様の中から一

肌脱いでホストファミリーの役を買ってでて頂ければ幸いです。もちろん次回の理事会にて協議することになってますが、自発的候補者を最優先致します。

### ■幹事報告

1) 例会臨時変更のお知らせ

○横浜田園クラブ

日時 6月18日(火)→19日(水)  
点鐘 午後6時30分

場所 米宗

日時 6月25日(火)最終移動例会  
点鐘午後6時

場所 海石榴つばき

### ■ニコニコBOX(会員敬称略)

北瀬 達也殿 (横浜鶴峰 RC) /今日はGSEの帰国報告の機会を頂きましてありがとうございます。帰国して1週間が経ちましたが、まだ経験したことを消化しきれていません。まとまりのない話になるかもしれませんが、どうぞよろしくお祈いします。

山崎 良三/鶴峰RCの北瀬会長、GSE派遣チームのリーダー役を無事終えての帰国を心からお喜び申し上げます。今日は楽しく報告を伺いたいと思っています。

青木 邦弘/北瀬会長、南アフリカはどうか？御苦勞様でした。

吉野 寧訓/今期の例会もあとわずかとなり、

出席率一位を目の前にして、創立以来の新記録が待ち遠しい想いで居ります。

安藤 達雄／北瀬さん、GSR の引率たいへんご苦労さまでした。

吉原 則光／①今日 5 月 29 日は、68 年前、横浜大空襲で忘れる事の出来ない日です。何があっても平和で例会の出来る幸です。②鶴峰の北瀬さん、ご多忙のところ卓話有り難うございます。楽しみにしております。

兵藤 哲夫／①北瀬さん、GSE ありがとうございます。御苦労さまでした！②先週、三浦雄一郎エベレスト登頂成功祈願でしたが、今日はおめでとうございます。超老人の誉れです。勇気をありがとう！

関口 友宏／①北瀬さん、GSE 団長ご苦労さまでした。②北澤さんのソングリーダー、最高でした。

田川 富男／北瀬さん、GSE 御苦労様でした。次期国際奉仕委員としても、ロータリーにとっても、国際奉仕は大切な奉仕活動だと思います。

安藤 公一／北瀬さんおかえりなさい。本日の卓話よろしくお願ひします。

新川 尚／北瀬さん、卓話楽しみです。

綿貫 守一／北瀬様、GSE の引率たいへんご苦労さまでした。

市川 慎二／①妻の誕生日に素敵なお花を頂きました。とても喜んでおりました。ありがとうございます。②北瀬さん、本日の卓話宜しくお願い致します。

五十嵐 正／北瀬さん、お帰りなさい。ご苦労さまでした。本日の帰国報告楽しみにしております。

## ■卓話

「GSE 帰国報告」 北瀬 達也

GSE は Group Study Exchange の略です。

ロータリー財団の教育的プログラムの一つで、異なる国の二つのロータリー地区が組み合わせられ、専門職業の研究グループを交換するというものです。

世界中に 530 のロータリー地区がありますが、今年度は、アフリカの第 9350 地区との交



喜望峰にて

換でした。

アフリカは 14 のロータリー地区に分けられていて、第 9350 地区はアフリカ大陸の南西に位置し、アンゴラ、ナミビア、南アフリカの 3 か国に跨る地区です。

派遣チームは、1 名のロータリアンのリーダーと、ロータリアン以外のメンバーで構成されることになっていて、今年度はリーダーの私と、宮澤 恵利香（図書館司書）、滋野 直子（スポーツエージェント）、野邊 誠（薬剤師）の 3 名のメンバー、計 4 名からなるチームでした。

派遣期間は 4/19 ～ 5/21 の 33 日間で、目的地のケープタウンまでは、成田からドバイ経由で約 25 時間かかりました。

日本とケープタウンの時差は 7 時間です。

ケープタウンはアフリカ有数の都市で、アフリカ大陸のほぼ南端に位置しています。テーブルマウンテンや喜望峰は世界的に有名です。15 世紀末に、喜望峰を通過してヨーロッパとアジアを結ぶ航路が開かれ、17 世紀にオランダの東インド会社により、食糧補給の中継基地として建設された都市です。

南アフリカは、その後イギリスの植民地となった経緯もあり、人口の約 1 割はイギリス系とオランダ系を中心とした白人です。

白人：9.1%、カラード（白人とその他の有色人種との混血）：9%、インド系：2.6%、黒人：79.4%

ロータリアンのほとんどは白人です。（たぶん 95%位）

派遣先では、メンバーは別々にロータリア

ンの自宅にホームステイをしました。

ロータリアンの多くは豪邸に住んでいて、プールを所有し、お手伝いさんが複数います。お手伝いさんの一日の給料は1,500円程度だそうで、日本と比べると賃金格差が大きいことに驚かされます。

向こうで初めて感じたことが、この貧富の差ということです。

南アフリカは、約20年前までアパルトヘイトという、人種差別政策を行っていた国で、現在、制度面では差別はありませんが、多くの非白人は貧困により十分な教育を受けられず、結果として低所得の仕事にしか就けません。

アパルトヘイト時代には、レストランや海水浴場などの施設から、列車やバスの車両に至るまで、白人用と非白人用に分けられたそうです。

また、人種ごとに居住区が定められたようですが、黒人に白人の裕福な生活を見せない為だったそうです。

黒人居住区はタウンシップと呼ばれ、現在もケープタウン郊外には広大なスラムが存在します。

南アフリカの失業率は25%以上で、タウンシップに足を踏み入れると、昼間から何をやるわけでもなくブラブラしている人が大勢いて不気味です。

車が信号待ちで停車をすると、物乞いが寄って来ますが、黒人は迫力があるので「金をよこせ」と恐喝されているようです。

#### GSEの仲間たち



南アフリカ日本領事館を訪ねて

ケープタウンの町並みに象徴されますが、日本人とは比較にならないくらいの裕福な人たちがいる一方で、その何倍もの黒人の貧困層が存在します。

日本にいると気づきませんが、日本は世界でも最も貧富の差がない国の一つではないでしょうか。

また、アパルトヘイト時代は、白人→カラード→アジア人→黒人という順に優遇・差別されていましたが、当時、日本は南アフリカにとって最大の貿易相手国であり、日本人は経済上の都合から「名誉白人」として扱われていたそうです。

私の印象では、経済上の理由だけでなく、南アフリカの人達は、日本に対してとても良い印象を持っているように感じました。

彼らは、日本人は勤勉で、礼儀正しいと見ていて、日本の歴史や文化にとっても興味を持っています。

また、車やカメラなど日本の工業製品が、性能面でとても高く評価されていることも理由の一つで、日本車を所有していることは彼らにとって自慢です。

ただ、今回感じたのは、韓国のサムスンがすごい勢いでシェアを広げていることです。残念ながら日本製のテレビを一度も見ませんでした。携帯電話もサムスンを使用している人が増えています。

また、それを追いかけてメイドインチャイナが着実に勢力を拡大しています。

海外製品に席卷され、自国の産業が育たないことも、南アフリカの貧困の一要因です。

南アフリカでは貧困層のうち、政府のサー

ビスを受けられる人たちはごく一部です。

ロータリーは政府に代わり、彼らのコミュニティに対してたくさんの奉仕プロジェクトを実施しています。

とくに貧しい子供達が教育を受けられるための支援に力を入れていて、施設や備品の寄贈や学費の支援等を行っています。(これらは、アメリカやヨーロッパのロータリークラブとのマッチンググラントによるものが多いです。)

また、失業者に対する就職支援(失業率は25%)、HIV感染の予防や感染者のケアなどが特徴的です。(南アフリカでは4人に1人がHIV感染者です。)

日本のロータリークラブとの一番の違いは奉仕プロジェクトの数で、あるクラブ(会員数50数名)は過去3年間で37のプロジェクトを実施しています。地域の人達は、ロータリーに多くの事を求めていますし、ロータリーのやるべきことはたくさんあると感じました。

クラブの運営に関しては、どこのクラブも年会費は1万5,000円~2万円程度です。食事は注文した人が支払い、地区大会も参加する人が登録料を払います。

女性会員は、半数はいませんが、かなり多く、女性会員曰く、「女性の方が積極的に活動して、ロータリーの存在価値を高めている」そうです。

また、夫婦でロータリアンというケースもめずらしくありませんでした。

例会の進行は日本とよく似ていますが、ロータリーソングはありません。日本ではロータリーソングを歌うと言ったら面白がっていました。

食事の前にクリスチャンだけが起立してお祈りをします。例会中、少し騒がしくなると、フォークでグラスをチンチンと叩くと皆静かになります。例会の後半に、誰かが落ちのある話をするのが恒例のようで、そこで大きな笑いが起き、最後に四つのテストを唱和し、ロータリーを楽しもうと言って閉会します。

例会の服装はラフな人が多いですが、一部

の人はネクタイをしています。白人も出自によって考え方が異なり、クラブ運営も一つのやり方を定めて皆に強制することは難しいのだそうです。彼らは多様性を認めるという表現をしていました。

例会では、日本と日本のロータリーについて、準備していったプレゼンを披露し、とても好評でした。

また、地区大会では、GSEで経験したことも交えてプレゼンを行い、拍手喝采を浴びました。先方地区のロータリアンに、日本と日本のロータリーについて知ってもらえる良い機会になったのではないかと思います。

今回のGSEのプログラムを通して身に染みて感じたことは、南アフリカのロータリアンの親切心です。

平均すると約4日ごとにホストクラブが交代し、8家族のホストファミリーにお世話になりましたが、日本のロータリーから来たというだけで、どこに行っても温かく迎えられるました。

私たちには1か月のプログラムですが、ホストクラブとホストファミリーは其々約4日間の短い時間に色々な事を凝縮してくれるので、休む暇もなく多くの事を経験させてもらいました。

約1か月もの間、すべてのスケジュールを段取りし、私たちの4人のために、たくさんの方のロータリアンの方が関わり、本当に多くのことをしてくれました。

GSEは今年が最後ですので、GSEチームの受け入れもうありませんが、私が受けた親切を何かの形でロータリーにお返ししたいと思っています。

旅の終わりに成田空港に着いて、入国審査の際に、係官が笑顔で動作もすばやいのを見て、日本のサービスは一流だなと感じました。

以上

## ■次週の卓話

### 職業卓話

市川会員

週報担当 川瀬恵津子